



まいのこ

学校だより NO.5

令和3年6月30日

浜松市立新津小学校

「いのちについて考える日」の朝会での校長の話

R3.6.11 (金)

アグネスチャン 1955年8月20日生まれ
 1998年 初代日本ユニセフ協力大使
 ~2016年 スーダン、イラク、ソマリア、シリアなどを訪問
 2016年 アジア親善大使
 2018年 春の叙勲 旭日小綬章

<アグネス・チャンさんのお話>

浜松市の小中学校で、一斉に「いのちについて考える日」の取り組みを行っています。これは、今から9年前の2012年6月に浜松市の中学2年生の男の子が、いじめを受けて自殺してしまったという悲しい出来事を受けて、このようなことが2度とないようにとの思いで行っているものです。

「アグネスチャン」という方のお話をします。ふるさとコーナーに色紙と写真がありますが、2003年6月にアグネスチャンさんが、新津小学校に「テレビ寺子屋」の収録で来られたことがあります。聞いたことがある人もいるかもしれません。初代日本ユニセフ協力大使や、アジア親善大使を務められました。

そのアグネスチャンさんが、いろいろな国を訪れ、子供たちと出会う中で思ったことをつづっています。その一部を紹介したいと思います。

～アグネス・チャン
 「小さな命からの伝言」より～

生命、生命、生命。

ボランティア活動をとおして、私はたくさん子どもたちと出会うことができました。一人ひとりの物語は、今でも私の胸の中で昨日のこのように生きつづけています。

彼らが直面している現実、耐えてきた苦しみを、ひとりでも多くの人に知ってほしい。世界中で、叫ぶことさえできない子どもたちから託された伝言を、みんなに届けたいのです。

どんな小さな生命も、いつもキラキラと輝いていました。その輝きは、どんな残酷な運命の下でも負けずに輝こうとしていました。

私たちはそんな子どもたちの生命の輝きを、決して忘れてはいけないと思います。小さな手、熱いまなざし、大つぶの涙、無邪気な微笑、力いっぱいふりしぼった声、抱きついてくる期待・・・・・・・・。

どんなに状況がきびしくても、そこに子どもがいる限り希望はある、未来はある、と私は信じています。

小さな生命たちよ、がんばって生きてほしい。幸せになってほしい。それが私の願い。生きている限りの願いです。

つらいことは、あります。それを乗り越える、強い心と体を自分自身の努力でつくっていきましょう。また、まわりにいてくれる人のために、やさしい心で助け合っていきましょう。人の心や体を傷つけることをしない、言わない、やっていたら止めてあげる。とても勇気ある、そしてやさしい行いです。それができる新津の子であってほしいと思います。